

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
♪ジョイコン NEWS♪
第58号(2023年2月)
★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

前号(第57号)で来年度(2023年度)の公演予定について予告し、ジョイコンのウェブサイトに出演者名を発表したばかりですが一部変更せざるを得ない事態となりましたのでお知らせいたします。

- ①第65回演奏会2023年11月19日(日)出演:篠原悠那(ヴァイオリン)他
→会場の都合により、2023年11月18日(土)に変更
- ②第66回演奏会2024年1月21日(日)出演:レグルス・クアルテット(弦楽四重奏)
→公会堂設備の改修工事のため中止(2024年度へ延期予定)

公演を楽しみにされていた皆さまにはまことに申し訳ございませんが、何卒ご理解くださいますよう、お願い申し上げます。

それでは、「♪ジョイコン NEWS♪」(第58号)をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】次回コンサートのご案内
◆第61回コンサート
- 【2】今後の予定(先取り情報)
◆第62回コンサート
- 【3】『忠実なる羊飼』
- 【4】コンサートのアンケートから

【1】次回コンサートのご案内(予約受付中)

- ★☆☆第61回コンサート☆☆☆
- ◇2023年3月19日(日曜日)14時開演
- ◇出演:AYAMEアンサンブル・バロック
野崎真弥(バロック・フルート)、鳥生真理絵(バロック・ヴァイオリン)
折原麻美(ヴィオラ・ダ・ガンバ)、名越小百合(チェンバロ)
- ◇プログラム(予定)
 - ◆J.-P.ラモーン:オペラ《ピグマリオン》(1748)より「序曲」
 - ◆G.P.テレマン:コンチェルト ト長調 TWV:43:G1
『6つの四重奏曲集』(1730)より
 - ◆J.-M.ルクレール:トリオ・ソナタニ長調 op. 2-8
『ヴァイオリン・ソナタ集 第2巻』(1728)より
 - ◆J.-P.ラモーン:コンセール第3番イ長調 RCT 9
『コンセールによるクラヴサン曲集』(1741)より
 - ◆G.-P.ギニョン:ラ・フェルスタンベール
『2つのヴァイオリンの為の異なる作曲家による小品集』op. 8より
 - ◆F.クーラン:コンセール第3番 イ長調
『王宮のコンセール』(1722)より
- ◇料金:大人・高校生2,000円、中学生以下1,000円
- ◇会場:横浜市港北公会堂(東急東横線 大倉山駅より徒歩7分)

第61回ジョイフルコンサートは、
『古楽器で奏でる18世紀フランスのサロン音楽~パリジャンの愉しみ』と題して、お届けします。

メッセージが届いています

コロナの影響により2年の延期を経て、ついに大倉山ジョイフルコンサートを迎えられることを大変嬉しく思います。
18世紀パリのサロンでパリジャン達を魅了した、繊細かつ華麗な音楽を集めたプロ

グラム、どうぞ日曜午後の優美な時間をお楽しみください。(AYAMEアンサンブル・バロック)

まだまだ寒い日が続きます。皆さまお気を付けてください。
次回第61回ジョイフルコンサートはAYAMEアンサンブル・バロックの方達の演奏です。
華やかな宮廷舞踏会を彩った曲を演奏してさせていただきます。春の訪れにぴったりですね。
どうぞお楽しみになさってください。

☆J.-P. ラモー/オペラ《ピグマリオン》(1748)より「序曲」

○J.-P. ラモー

ラモーはバロック時代のフランスの作曲家で音楽理論家です。
父親がディジョン大聖堂のオルガニストだった影響で、チェンバロは演奏していましたが、法学を専攻しました。
音楽と音楽研究は趣味だったんですね。

その後いくつかの大聖堂でのオルガニストとなり、法学者ではなく作曲家になっていきます。

当時のフランスブルボン王朝全盛期の王ルイ14世は、“踊る”王でした。
王の庇護のもとで作曲されたオペラは舞踏の要素が大きくオペラ・バレとして発展しました。
イタリア人作曲家ジャン・バティスタ・リュリによって、確立された「オペラ・バレ」はラモーに引き継がれ、更に大成していきます。

○オペラ《ピグマリオン》(1748)より「序曲」

「ピグマリオン」は1幕のバレエ付きオペラです。
ギリシャ神話を元に作られています。

キプロス島の王ピグマリオンは、恋人セフィーズがいながら、現実の女性に幻滅してしまい、自分の理想の女性を象牙で作し、本気でその女性像に恋をしてしまいます。
怒ったセフィーズは当然ですが、ピグマリオンから去っていきます。
その恋は報われるわけもなく、どんどんピグマリオンは憔悴していきました。
ピグマリオンは女神アフロディーテにその像に命を吹き込むように懇願します。
その姿を憐れんだアフロディーテは、ピグマリオンの願いを叶えて、その像に命を吹き込み、ガラティアと名付けられたその女性とピグマリオンは結婚する、というお話です。

この話を元にミュージカルの「マイ・フェア・レディ」が作られたと言われています。
言語学者のヒギンズ教授が下町のコックニー訛りがひどい、あまり品の良くない花売り娘のイライザを、徹底的に言葉から礼儀作法まで教えこみ、非の打ちどころのない淑女に作り上げるという物語ですね。
オードリー・ヘプバーン主演の映画でご存じの方も多いと思います。

「序曲」は軽快なメロディーで始まります。
オペラのストーリーとは関係ないですが、宮廷での舞踏の様子が目に浮かぶようです。
後半の早いパッセージが続く部分は、彫刻でのみを打つ音を表現しているそうです。

いろいろな演出があるようですが、オペラではこの曲でピグマリオンが現実の女性に幻滅して、理想の彫像を作ることにのめりこんでいく姿が描かれていくものもあります。

いろいろ想像しながら、演奏を聴くと楽しいのではないのでしょうか？(A.N)

■予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定（先取り情報）

★☆☆第62回コンサート☆☆★

◇2023年5月21日（日曜日）14時開演

◇出演：鈴木隆太郎（ピアノ）

◇プログラム（予定）

◆ショパン：バラード第1番 ト短調 作品23

◆リスト：スペイン狂詩曲

◆リスト：タベの調べ

◆ショパン：バラード第3番 変イ長調 作品47

◆ショパン：華麗なる円舞曲 変イ長調 作品34-1

ほか

◇予約受付開始：2023年3月20日（月曜日）午前9時より

★プログラム等詳細は順次、本紙面、ウェブサイト、チラシ等でお知らせします。

【3】『忠実なる羊飼』

半世紀以上前の日本で、ラジオは貴重な媒体でした。

ブラームス『大学祝典序曲』は1952年に始まった「大学受験ラジオ講座」、ハイドン『時計』は1954年からの「百万人の英語」の番組冒頭に流れていたテーマ曲ですが、これらを聴いて当時を思い出す方もいらっしゃると思います。

ヴィヴァルディの『忠実なる羊飼』もその一つ。

1963年から1985年まで続いたNHK FM早朝の番組「バロック音楽の楽しみ」のテーマ音楽として流れていました。

『忠実なる羊飼』とは6つのフルートソナタ集のことで、テーマ音楽はそのうちの第2番ハ長調第1楽章。演奏はジャン＝ピエール・ランパルのフルートとロベール・ヴェイロン＝ラクロワのチェンバロによるものでした。

当時番組を聴いていた古楽ファンには大変懐かしい曲ではないでしょうか。

ところが、この『忠実なる羊飼』、1985年の番組終了後にヴィヴァルディ作曲によるものではないことが判明します。本当の作曲者はニコラ・シェドヴィル(1705-1782)という作曲家でした。シェドヴィルは作曲家というよりはむしろミュゼット(バグパイプの一種)奏者としてその名を馳せていました。そのシェドヴィルが当時人気を博していたヴィヴァルディを騙り自作の曲集を出版したということです。シェドヴィルは何故そうまでして曲集を出版したのか、については諸説ありますが、ヴィヴァルディの名を借りてミュゼットという楽器を広めたかった、という説が有力のようです。

ただ一つ腑に落ちないのは、曲集が出版されたのが1737年でヴィヴァルディ(1678-1741)は存命中だったことです。もしかしたらヴィヴァルディは名前貸しを了承していたのではないかとも思えます。

シェドヴィル「ミュゼット用の新しい曲を作ったんですが、先生、ちょっと名前を貸してもらえませんかね？」

ヴィヴァルディ「どれ、その新しい曲っていうのを見せてごらん。おや、なかなかの名曲じゃないかね。あーうむ、まあいいよ。好きにしてくれ。私も『四季』以来さっぱりだからね」

なんて会話があったかどうかはわかりませんが。

しかしそこまでして出版した『忠実なる羊飼』は期待したほどは売れず、その後シェドヴィルがヴィヴァルディを騙ることもなくなったようです。

出版譜の正式な題名は『忠実なる羊飼、ミュゼット、ヴィエール、フルート、オーボエ（または）ヴァイオリンのための通奏低音付きソナタ』でした。

楽器の選択が自由なのは当時ではごく普通のことでしたが、あえてミュゼットを筆頭に置いたことからシェドヴィルの意気込みが感じられます。

しかしミュゼットを普及させるという目論見は外れ、『忠実なる羊飼』は皮肉にもその後フルートソナタ集として広く知られるようになりました。1990年頃、真の作曲者が判明後は、作曲者がヴィヴァルディから伝ヴィヴァルディを経て現在はシェドヴィルになっています。

この予想外の展開をシェドヴィル自身はどう思うのでしょうか。(ハナミズキ)

【4】コンサートのアンケートから

前回のジョイフルコンサート（1月15日公演）『黒川 侑 ヴァイオリン・リサイタル～名曲とめぐるブラームスの歌と夢』は如何でしたか？

「Web アンケート」には、演奏のご感想や運営について、今後のご希望など貴重かつ熱心なコメントを頂きました。一部をご紹介します。

アンケートでの質問「今回のコンサート内容はいかがでしたか？（5段階評価）」に対し、「大変良かった」側の「5」が94%、「4」が6%という極めて高評価でした。

自由記入欄の「演奏のご感想」では、
『黒川さんのヴァイオリンは変幻自在。雄渾で柔らか。スケール大きく、心揺さぶられました。これだけボリュームあるプログラムをどの曲も聴かせる力量も凄いです』『見事なお2人の呼吸とグアルネリの極上のトーンにやられました。最高！』『すばらしい技巧はもちろんのこと、心を込めた一音一音に心酔しました。しかもこれほど充実したプログラム聴かせていただいて、演奏家の黒川さん、日高さんに感謝です』
など演奏の素晴らしさに感動されたとのことのご感想が数多く寄せられました。

「運営について」では、
“受付&誘導”についての苦情が複数件寄せられました。
受付の順番が乱れて不快な思いをされた方にはお詫び申し上げます。
次回ではその様なことが無いようにしたいと思います。
アンケート回収数:32（回収率 18%）

【編集後記】

2023年もはや一カ月が過ぎました。クラシックファンにとって年が改まるとちょっと気になるのがメモリアルイヤーの作曲家ですね。

今年はパッヘルベル（生誕 370 年）、ボッケリーニ（生誕 280 年）、ベルリオーズ（生誕 220 年）、ヴェルディ（生誕 210 年）、ワーグナー（生誕 210 年 没後 140 年）、ラロ（生誕 200 年）、ドップラー（没後 140 年）、ポロディン（生誕 190 年）、ブラームス（生誕 190 年）、チャイコフスキー（没後 130 年）、グリーグ（生誕 180 年）、マスカーニ（生誕 160 年）、ラフマニノフ（生誕 150 年 没後 80 年）、セゴビア（生誕 130 年）、ブリテン（生誕 110 年）などなど。

メモリアルイヤーということで普段より演奏される機会が増えるのはファンとしては歓迎ですね。（お）

※このメールマガジンは、大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■ 次回予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

■ バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

■ 配信停止/アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら

<mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール <mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

携帯電話 080-8424-5108

URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>